

平成二十七年度 介護川柳 入賞者

【最優秀賞】 一点

引き出して 薬屋でさる のみ忘れ

石丸 幸枝 池田町 (三十四才)

今、内服されている薬を確認するため見せて頂くと、
出てくる出てくるたくさんの薬…。

「これは〇〇のためにとつといてあって、これは〇〇の時に
…。」と一つひとつの効能を伺いました。

本当に丁寧に、薬屋さんのようでした。

【優秀賞】 二点

認知症 合わせる私は 大女優

上志比デイサービスセンター 永平寺町

毎日介護をさせていただくなか、ふと認知症の利用者
さまに対し、親・兄弟、時には娘や孫になりきって対応
する介護職員を見た時に浮かんだ句です。

みんな大女優・大俳優です。

惚けても イケメンだけは わかる祖母

角森 玲子 鳥根県安来市(四十七才)

昔からイケメン好きだった祖母。祖父との結婚を決めたのもイケメンだったからとか。

亡くなる前の十年間、老人ホームに入所していました。が、イケメンの介護職員さんを指名するなど、イケメン好きは健在でした。それが長生きの秘訣だったのかも知れませんね。祖母も天国で喜んでくれていると思います。

【佳作】 二点

じじハラも 笑いに変わる ばばヘルパー

岩田 眞美 越前市(六十三才)

小規模多機能ホームで、ヘルパーをしています。

利用者さまのハラスメントも笑いに变えて、みんなで明るい毎日になるように、ばばヘルパーの知恵です。

ちなみに介護職の三分の二は、ばばヘルパーです。

(注 ばばヘルパーとは、人生経験豊かなちよっと年配の介護職員さんを称しておられると思われまます。)

学歴は 昔は早稲田 今わせえた

井上 素子 池田町(九十一才)

現在九十一才の母、年齢相応の物忘れはありますが、身体はいたって健康で入院の経験はありません。

毎朝集落の神社への散歩が楽しみで、久かした事がないほどです。途中で出会った人に「私は池田町のワセダ大学に行っている」と話すので、母がデイサービスに通っていることは、皆さんご存知です。毎日笑顔で暮らし、大好きなワセダ大学に通っています。

大好きなワセダ大学のことを、川柳に発表したかったようです。

【介護福祉士会賞】 二点

啄木を 真似ておぶって 共倒れ

亀井 千代藏 広島県福山市(六十二才)

この句は、啄木の名句

「たはむれ(戯れ)に母を背負いて

そのあまり軽きに泣きて 三歩歩まず」

がひらめき、推敲を重ね、パロディー化して吐き出しました。ありがとうございます。

マイナンバー 名前も忘れる このオレに

龍溪 信行 福井市(六十六才)

現在、国民一人ひとりに「マイナンバー」の通知が進んでいます。今後、色々な書類に十二桁のマイナンバーを記載することが要請(強請)されると思います。

私のような高齢者も適切にマイナンバーを管理・運用できることが求められます。介護を受ける状況の身となっても安心・安全なマイナンバー制となる仕組みをしっかりと作ってほしいと思います。

